「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。
http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY（ニュース　キャティ）

２０１７年９月　第114号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集長／藤本　愉

俳句の魅力を愉しむ

札幌と滝川でイベント　みずみずしい若者作品

９月17日、俳句ガーデンが札幌の紀伊國屋書店１階インナーガーデンで、俳句バーが滝川の太郎吉蔵で、新進気鋭の俳人・堀本裕樹氏、歌人・山田 航氏を招き、歌人で本学教授の月岡道晴が進行役となって、それぞれ開催されました。

このイベントは、参加される方々に前もって出されたお題の俳句を提出していただき、それを一覧表にしたもの見て気に入ったものに投票し、得点を競う合うものです。

また、提出された俳句について、その内容やできた背景、作者の思い入れなどについて語り合い、作者自身がそれまで全く気づかなかった見方などが語られ、新たな発見があったりしました。

「句会といえば年配の方々の集まりが多いようですが、若い人たちの斬新な発想・意見が聞かれたのが大変良かった」と、多くの参加者から聞かれました。

特選二句

秋の蝶同棲二年目の茶碗
秋の灯やいつか消えゆく町に住み

教育実習を体験して

教えることの難しさを知る

私は、８月21日から９月８日までの３週間、滝川市立江部乙小学校で教育実習を行いました。この実習を通して自分の力量とこれからの課題に気づくとともに、指導の工夫について学ぶことができました。

初日は、子どもたちとどう関わればいいかと緊張をしていましたが、明るく元気な子どもたちとたくさん話して、たくさん遊んでいくうちに自然と笑顔で楽しく過ごすことができました。休み時間になると「遊ぼう!」と、子どもたちから声が上がり、体育館へ行き毎日のように鬼ごっこをしました。遊びを通して子どもたちとの距離を縮めていくことができたと思います。

子どもの考えが広がるような問いかけ、楽しい雰囲気の授業を作り上げる先生方の姿から自分の授業にも取り入れて、どうすれば良い授業になるのかということを考えました。教師がきちんとした指示を出し、何をするのか明確にすることで分かりやすくスムーズに学習ができるということを実感しました。失敗したときには担当の先生からアドバイスをいただき、一緒に対応策を考えることで乗り越えました。そして、たくさんの方の協力のおかげで分かりやすい授業を作り上げることができました。

この実習では、教師の大変さを知っただけではなく、子どもたちと触れあうことの楽しさや教えることの喜びを知ることができました。子どもたちの成長の力になる「教師になれるように、学んだことを生かして頑張りたいと思います。（幼児・児童教育学科児童教育コース２年／三井芳紘）

常に生徒に寄り添うことが大切

私は、５月29日から６月16日までの３週間、母校である天童市立第三中学校で教育実習を行いました。英語科の実習生として１年生の授業を受け持ちました。担当する学級（ホームルーム）は３年４組となりましたが、偶然にも私の卒業した教室も３年４組だったのですごく懐かしく思いました。

最初の３日間は生徒とどのように交流すればいいかがわからず、とても戸惑いました。教育実習開始前、上手に生徒と接することができると思っていたのですが、現実はそんなに甘くはありませんでした。いろいろと考えた結果、自分から積極的に行動しないと何も変わらないと思い、その日から積極的に名前を覚え、話しかけることにしました。こうしたことにより、少しずつ生徒との距離が近くなっていく感じがしました。

また、授業では予定通り授業ができたものの、失敗した授業もありました。授業の流れのイメージを明確にすることなく授業を行ってしまったときは、多くの生徒が何を学習したらよいのかわからず、結果として生徒にとって辛い授業であったと思います。十分な教材研究や授業案が必要なことを痛感しました。生徒から「先生」と呼ばれたことで自分が舞い上がってしまいました。教育実習生であっても生徒は一人の教師として見てくれていることがわかったときは、とても嬉しく思いました。教育実習生として、授業などを通して生徒の学力の定着と向上に全力尽くすことは当然のことですが、大切なことは常に生徒に寄り添い、ともに学校生活を楽しく過ごすという姿勢であることを理解した教育実習となりました。

天童三中の生徒の皆さん、阿部校長先生をはじめあたたかなご指導をいただいた指導教諭の五十嵐先生、そしてお世話になった教職員の皆様に心から感謝いたします。（総合教養学科２年／真木拓哉）

短大部でアイヌ文化を体験

久我山中の生徒たち

國學院大學久我山中学の生徒らが９月５日、國學院大學北海道短期大学部でアイヌ文化体験を行った。生徒たちはアイヌの民族楽器「ムックリ」の演奏を体験したほか、アイヌの住居「チセ」を見学した。

ムックリとは、竹製の薄い板のような楽器。紐がついており、この紐を引っ張り振動させて口内に音を響かせる。音程はほとんど二つの高さから変わらないが、口の形を変えて響きを変える。初心者はまず音を出すのが難しく、久我山中学の生徒らも苦戦しているようだった。

アイヌ民族は、古くから北海道を中心に東北地方北部やサハリン南部、千島列島に暮らしてきた人々で、独自の言語を持ち、本州や大陸など周辺の文化と互いに影響し合いながら豊かな文化を形成してきた。漁狩猟・採集が生業の基盤だが、東北地方や大陸との交易も盛んに行っていた。

江戸時代中期からの松前藩による支配、明治以降の同化政策などで独自の文化は否定され、搾取や差別を受けるなど、苦難の道を歩んできたが、その文化は受け継がれ、今日に伝えられている。10月１日「ペカンペ祭り」を開催する予定だ。（国文学科２年／玉造佐妃）

やるべきこと明確に

就職ガイダンス

就職ガイダンスに参加し、今までなんとなくのイメージしかなかった就職活動について、基本的なことや先輩方の体験談を聞くことができ、就職活動への理解を深めることができました。また、今自分がどういう状況なのかがわかり、編入してからすぐに就職活動をすることへの焦りなども感じました。しかし、藤形先生が「今から出来ることをやっておけば本学の就職活動に乗り遅れずにやれる」と話していたので頑張ろうと思いました。

また、ガイダンスの翌日には藤形先生と個人面談をさせて頂き、不安を解消することが出来ました。今何をすればいいのかが明確になり、編入後の就職活動へのモチベーションが高まりました。２年間しかない短期大学では、あまり編入後の就職活動のことを意識する機会が少ないので、本学の先生を招いて説明会を開いてもらうことで私たち短大生は就職活動に関心を持つことができました。

私は、卒業までの残り半年間で企業研究や自己分析などやれることからやっていき、編入後にはインターンシップに積極的に参加し、自分などういった企業が合っているのか時間をかけて探していきたいです。そして４年生の６月には内定をもらえることを目標に頑張りたいと思います。（総合教養学科２年／山田美緒）

幼稚園などで地域交流事業

10月から計５回

幼児・児童教育学科幼児保育コースの１・２年生全員が、中空知管内の保育所・幼稚園・福祉施設などで地域交流事業を実施します。

学生たちによる、音楽劇「泣いた赤鬼」、パネルシアター、手・指遊び、子どもの合唱ほかを行います。

学生たちは地域との交流をとおして、幼稚園や保育園などの現場での実践力を身につけていきます。

▽10月26日　本学体育館（中央保育所、二の坂保育所、花月保育所、一の坂保育所、江部乙保育所、歌志内幼稚園ほか参加）

▽11月１日　たんぽぽの家（北海道療育園滝川通園事業所）

▽11月９日　新十津川子育て支援センター

▽11月22日　すずかけ（滝川市デイサービスセンター）

▽12月７日　滝川白樺幼稚園

居宅介護を体験して

コミュニケーションが大切

居宅介護は初めてのことで、不安と緊張で精一杯な部分がありましたが、振り返ってみると勉強なることが多かったと思います。

居宅実習では、初日の１件目を訪問させていただいた時に本来ならばコミュニケーションを取りながら作業をしないといけなかったのですが、私にはそのことが難しく、ただ掃除などの与えられた仕事だけをしている形になってしまい、このままでは利用者さんに対しても失礼だと感じ、そのお宅の訪問が終わる頃に自分からようやく話が出来るようになり、もっと早くコミュニケーションを取れたら良かったと反省しました。

２件目のお宅では、１件目の反省点を踏まえて、最初の方に自分からコミュニケーションを取ると、利用者さんから話しかけてくださったので、自分から行動していくことが大切だと感じました。

実習２日目に訪問したお宅は３件とも、主に掃除と床拭きを行ったのですが、それぞれの家のやり方があり、ここは拭かなくても良いところだよと利用者さんが教えてくださり、そこからコミュニケーションが広がり、私自信もいい実習になりました。

今回の実習は２日間という短い実習でしたが、自分から行動していかなければならないこと、コミュニケーションが大切であるということを学ぶこと出来ました。次は10月中旬から６週間の実習があるので、今回学んだことを生かして頑張りたいと思いました。（専攻科福祉選考／藤原朱音）

本年度最後のオープンキャンパス

本年度最後のオープンキャンパスを10月７日午前10時半から実施します。テーマは「歴史」「安楽死を考える」「昔遊び」「夢、実現！先生になろう」と各学科に関連したものばかりです。

昼食は学生食堂で、普段学生たちが食べているものが食べられます。午後からは自由時間となりますが、入試・授業・学費・奨学金・学生生活のことなど、教職員・在学生がアドバイスしますので、気軽に質問してください。

そのほか、図書館・体育館・教室など学内施設を見学するキャンパスツアー、一人暮らしをする人のためのアパート見学会、茶道部による「抹茶のおもてなし」などがあります。高校３年生はもちろんのこと、高校１・２年生、ご父母も是非ご参加下さい。